

## いちごのアザミウマ類による春先の被害増加を、 適期防除で抑えましょう！

今作のいちご本ぼでのアザミウマ類の発生は、秋期から「やや少ない～少ない」状況で推移しており、2月上旬のいちご本ぼの巡回調査結果は、発生ほ場率4.7%（平年比25.8%）、寄生花率0.3%（平年比21%）とやや少ない状況です（図1）。しかし、ハウス内の温度が高くなるこれからの時期は、アザミウマ類の活動が活発になり増加しやすいため、被害が拡大する場合があります。アザミウマ類を多発させてしまうと、一度の防除では被害の抑制が困難になるので、ほ場をこまめに観察して少発生のうちに対応しましょう。

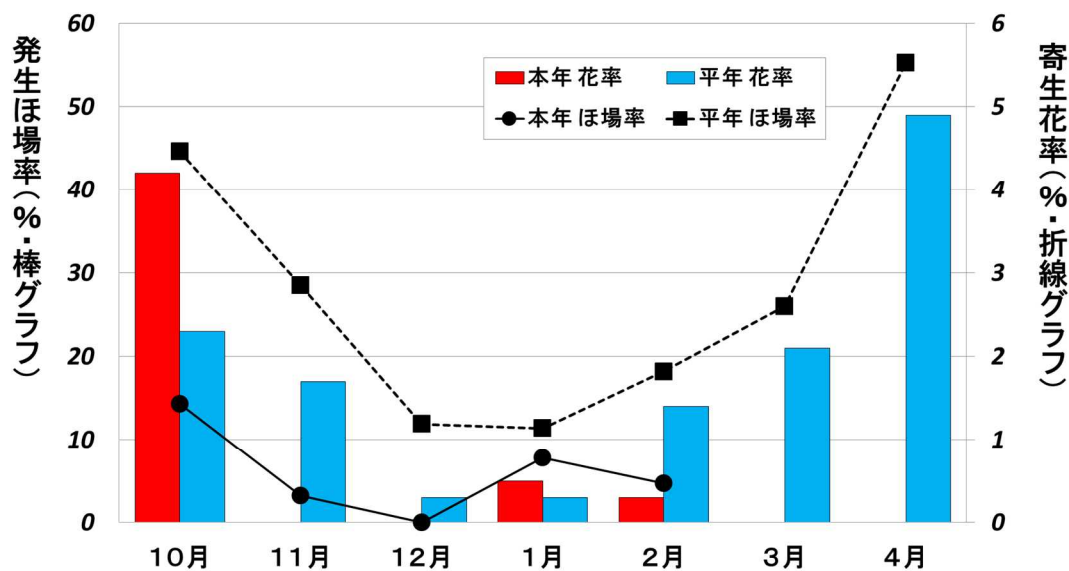


図1 果実加害性アザミウマ類発生ほ場率・花率



図2 アザミウマ類の食害による被害果



図3 花に寄生するヒラズハナアザミウマ

## ◎防除対策

- ・アザミウマ類の発生初期から IGR 剤を散布し、発生量を抑制しましょう。また、幼果に図2のような褐変が、ほ場内で僅かでも見られる場合は、アザミウマ類が増殖している証拠ですので直ちに防除が必要です。
- ・1割以上の花でアザミウマ類（図3）が見られるときは、IGR 剤だけでは抑制が難しい状態です。ディアナ SC、スピノエース顆粒水和剤など成虫にも効果の高い薬剤も使用しましょう。
- ・ハウスの換気量が増大する時期になると、ハウス外から大量に成虫が飛び込んで来るので、成虫にも効果の高い薬剤を交えた防除が必要になります。
- ・多発時には、薬剤がかからない卵や蛹が混在するため、一度の薬剤散布では防除することが困難です。IGR 剤の散布から約5日後に、スピノエース顆粒水和剤などを追加散布することで、高い防除効果が得られます。

表1 いちごのアザミウマ類に登録がある主要薬剤（平成30年2月28日現在）

薬剤系統名	農薬名	防除の対象	収穫前日数	天敵カブリダニ類との併用	ミツバチ影響日数	IRACコード*3
IGR（ベンゾイル尿素）	カウンター乳剤	幼虫	収穫前日まで	可	1日	15
	マッチ乳剤*1	幼虫	収穫前日まで	可	1日	15
スピノシン	スピノエース顆粒水和剤	成虫・幼虫	収穫前日まで	*2	3日	5
	ディアナSC	成虫・幼虫	収穫前日まで	*2	3日	5
ピレスロイド	アーデント水和剤*1	成虫・幼虫	収穫前日まで	不可	2日	3A
環状ケトエノール	モベントフロアブル	成虫*4・幼虫	収穫前日まで	不可	1日	23

\*1 登録害虫はミカンキイロアザミウマ。

\*2 天敵カブリダニ類に影響があるので、基本的には天敵を放飼してから1か月後以降に使用する。またアザミウマ類、ハダニ類の発生状況をよく見て判断する。

\*3 IRACコードが同一のものは作用点が同じなので、薬剤抵抗性発達の観点から連用を避ける。

\*4 成虫に対しては効果が劣る。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。